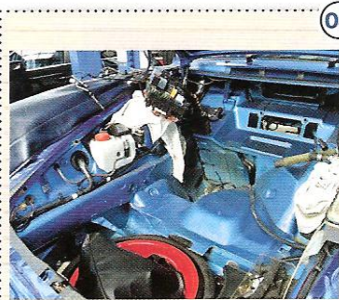




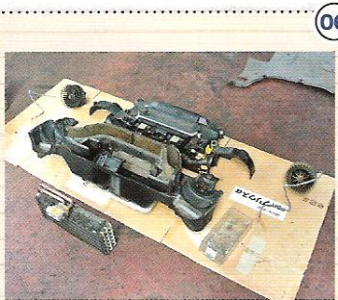
今回のエバポレーターの交換作業は、横田メカに代わってこの高木正人メカニックが担当してくださることになりました。よろしくお願いします。



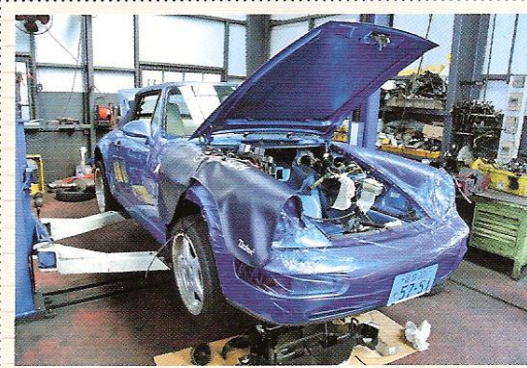
これがフロントフードの状態。すでに燃料タンクも外して空っぽでした。964はこのようなフロントフード側からエバポ交換の作業を行います。



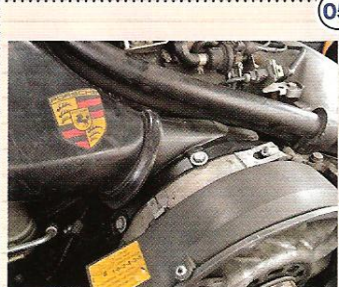
これが外した燃料タンク。大容量なので燃料を抜くのに大変時間がかかります。エバポ交換を依頼するときには、なるべく空で入庫させてください。



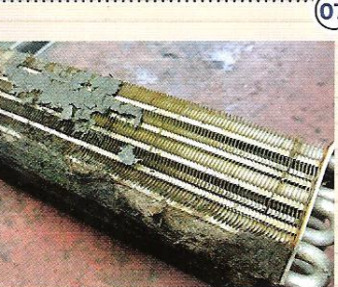
これが964のエアコンユニット。エバポや2個のブロワー等、一式が収納されています。燃料タンクを外さないと、これを外すことができません。



エバポレーター交換は時間がかかる作業なので、ある程度まで作業を進めておいていただくことにしました。取材当日、ナガセ自動車さんに到着したら、もうここまで作業が終了していました。



前回の取材で破損に気付いたエンジン冷却用のファンとヒーターブロワーをつないでいるラバー製のエアダクト、すでに新品に交換されていました。



これが外したエバポ。清掃したのでこの状態になりましたが、最初は漏れたクーラーガス(に混ざっているオイル)や蛍光剤でデロデロだったそうです。

ポルシェ964カブリオレMT車 Vol.4

新車に戻すぞ How Much!

文●半谷範一、エフロード編集部 撮影●森口信之

取材協力●スピードジャパン (tel:03-3555-8865 <http://www.speedjapan.co.jp/>)

ナガセ自動車 (tel:052-361-6270 <http://www.nagase-jidosya.co.jp/>)

今月は突然死んだエアコンの修理。

一体エアコンガスはどこから漏れていたのだろうか。

その場所によってはかなり厄介な作業になる。

祈るような気持ちでバラし始めたら…。最悪…。

ここだけはやめてね、って箇所からガス漏れの兆候が。

さすがに22年前のクルマって感じですかね。

一番壊れて欲しくないところ
エバポがやられていました！

先月号ではエアコンが効かなくなつた原因を調べるために、エアコンのシステムの中にガス漏れ検知用の蛍光剤を入れたところまで作業を行ないました。今月はその続きを書かせていただきますことにしましょう。

この964の場合、症状はすぐにガス圧がなくなってしまうというもの。つまりどこからかガスが漏れていることは明白でした。つまり、蛍光剤を入れて、しばらく経ってからブラックライト(紫外線ライト)で照らせれば、漏れている部位が光るので特定できるというわけです。

エアコンの冷媒ガスというのは困った性質があり、それこそどこからでも漏れます。ホースの継目はもちろん、エバポレーターやコンデンザー、コンプレッサー本体、ホースに開いたピンホール等々、漏れない部分の方が少ないといっても過言ではありません。

中でも一番やっかいなのはエバポレーターからのガス漏れです。60〜70年代のクルマみたいにダッシュボードに吊り下げているクーラーの時代なら簡単だったのですが、現在のエバポは大抵がダッシュボードの奥深くに取り付けられているため、手間(＆工賃)がかさんでしまうからです。で、今回もそこじゃなければ良いなあと思っていたのですが、スピードジャパンの小澤社長から入った連絡は…。

「やっぱりエバポでした。まあ、こういうときは壊れて欲しくない所から壊れるものですね(苦笑)」

オイシイです。ゴメンナサイ。

エバポの場合、分解するだけで結構な時間がかかってしまうこともあり、今回はバラすところまでは先に作業をしておいていただくことにしました。

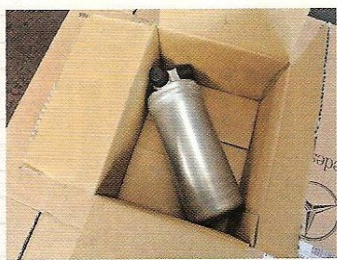
通常のフロント・エンジンのクルマの場合、エバポを交換するのにダッシュボードをそっくり取り外すというケースが珍しくありません。車種によっては、そこに辿り着くまでに何日もかかることさえあります。今までに何度か取材したことがありますが、室内側からの作業は汚したりしないように通常より気を付けて行なうことが必要なので、メカニックの皆さんが嫌がるのも無理ないなあと思います。

911の場合、フロントにはエンジンはないし、エバポもフロントフード内にあるので、多少は作業が楽なのか？と思っていたら、決してそんなことはありませんでした。なぜなら、964のエバポを取り外すためには、燃料タンクを取り外し、エバポの入ったエアコンのユニットを丸ごと取り外す必要があるからです。930ではリッドを開けると簡単にアクセスできるので、964も似たようなものかな？と思っていたのですが、こりや全然違いました。でも後で服部マネージャーから今回の工賃を聞いてビックリ。この作業、その工賃では自分じゃ絶対やりたくないと思いました(笑)。

さて、次号ではいよいよ修理ではなくリフレッシュ関連のネタ、ショックの交換について書かせていただく予定です。お楽しみに。



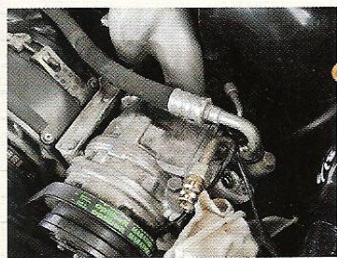
はい、取り外し成功。狭いエンジンコンパートメントの隙間を縫うように通っているの、まるで知恵の輪を外すみたいな作業になってしまいます。



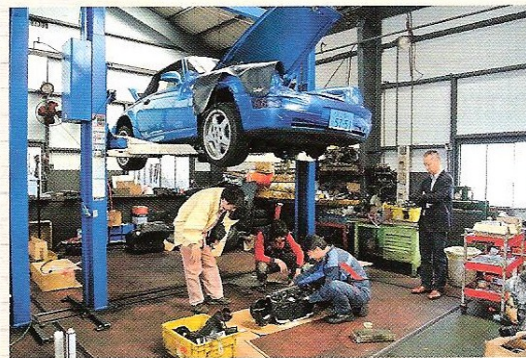
今回用意した新品は無塗装でした。湿気を吸ってしまうと駄目になってしまうので、取り付け直前までキャップを外してはいけません。



新旧のエバボの比較。左側にエキスパンションバルブが取り付けられています。このバルブから吹き出すときに冷媒が気化してエバボを冷やすという構造。もちろん今回はエキスパンションバルブも一緒に新品に交換します。



交換したのはこのコンプレッサーにつながっている低圧側のホース。ガス漏れ検知器には反応したものの、蛍光剤はにじんでいませんでした。



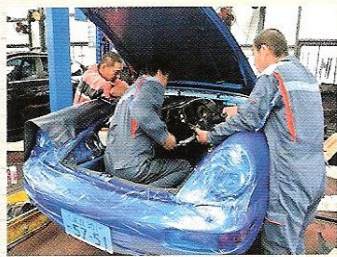
「これは〇〇なんですか?」「いえいえ、××なんです。次にこちらをこうして…」取材を受けながらの作業なん、担当の高木メカもやりにくそうですね(笑)。でも我々にとっては色々勉強になります。



エバボはこのような状態でクーラーのユニット内に収納されています。サイズは930の時代より拡大されているので、効率も良くなっています。



これが新品のホース。細かいところが少しずつ変わっていますね。残念ながらこういうパーツは消耗品なので、そんなに長持ちするもんじゃありません。



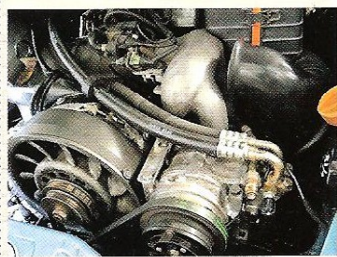
さて、次はいよいよエアコン・ユニットの取り付けです。パズルを組み込むような結構面倒な作業なので、今回は3人がかりで行ないました。



これがエアコン用のブロワー。これと同じやつがユニットの左右に1個ずつ装着されています。ユニットの内部は結構複雑なんで驚きました。



クルマに装着されている状態では、このように完全にカバーされています。残念ながら、外から目視で簡単にガス漏れを確認することはできません。



はい完成。残念ながらこの日はチェックできませんでしたが、問題なく作動するようになりました。でも効果を体験できるのは来年の夏ですね(笑)。



ようやく装着作業が完了。こうやってみると、964の場合はエアコンのユニットがかなり大きなスペースを占めていることがよく分かります。



はい、これでユニットは完成です。向かって右側のブロワーにカバーをしていないのは、装着時に色々邪魔になってしまうため。

担当SHOP



ナガセ自動車

本店:新車中古車センター
名古屋市中川区昭和橋通6-33
tel:052-361-6270
サービス工場
名古屋市中川区昭和橋通6-33
tel:052-361-6271
飛島店
海部郡飛島村大字梅之郷字宮東9番
tel:05675-2-1300

ナガセ自動車は、ヒュンダイ、三菱自動車、メルセデス・ベンツ、BMW、ボルシェなどの新車・中古車販売と自動車修理、自動車保険、板金、塗装など様々な商品とサービスを提供しているプロショップ。国道1号線を名古屋方面から蟹江方面に向かい、庄内川約2km手前の国道線沿いの北側。「ナガセ自動車」の大きな看板が目印。サービス工場は一本北側の道沿いにある。

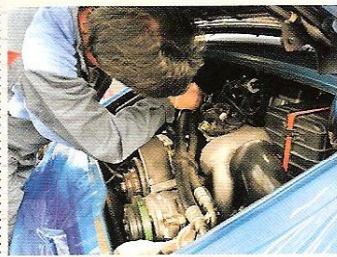
■現在の走行距離
2012年11月20日現在: 10万5500km
今月の走行距離: 13km

■今月の維持費(税込)

●エアコン修理代一式 78,000円
●パーツ代 SJ価格
エアダクト 7,512円(定価8,032円)
エバポレーター 37,065円(定価128,100円)
エキスパンションバルブ 6,804円(定価27,195円)
リキッドタンク 11,718円(定価41,055円)
Oリング類 1,890円(定価3,286円)

●合計 142,989円

※SJ=スピードジャパン



点検の結果、1本のホースのカシメ部分からもガス漏れていることが判明したので、それも交換することになりました。手が入りにくいなあ。



これはいわゆるリキッドタンク。左フロントフェンダーの内側にあります。ドライバーとか、セパレーターとか、他にも色々な名前と呼ばれています。